



リトル・レス 小豆 A1

十和田春彦



# リトルプレス小豆A1

茜町春彦

目次：

- 英訳昔話「蟹淵と安長姫」
- 推理エッセイ「漢風諺号」
- イラストレーション「十一面観音菩薩」



## 英訳昔話「蟹淵と安長姫」

絵・文・訳： 茜町春彦

原作： 柳田国男

概要： 絵本です。原作は日本の昔話（新潮文庫）の中の一編です。

日本の昔話： 著者は柳田国男（1962年没）です。柳田国男氏自身が述べているように『日本の昔話』は全国から集めた話なので、創作性の観点から著作権は元々発生していないと思いますが、仮に著作権が発生していたとしても柳田国男氏の没後50年を経過していますので既に消滅しています。（著作権：消滅）



むかしむかし隠岐島の元屋という村に、年とった一人の木こりがありました。

Once upon a time, there was an Old Woodman in Motoya village of Okinoshima island.



或る日、安長川の奥に入って、滝の後ろの山で木を切っていましたが・・・

One day, the Old Woodman went to the upper stream of Yasunaga river.

And he was hewing down a tree at a hill behind a waterfall.



．．．つい誤って手に持つ斧を取り落して．．．

The Old Woodman mistakenly dropped his ax.



・ ・ ・ 滝の壺の小さな円い淵の中に沈めてしまいました。

The ax sank into the small round basin of the waterfall.



そうすると忽ち、その淵に浪が起こり水煙が立って、そこら辺が真っ暗になりました。

そうして水の中から黒い棘の生えた棒のような物が、浮かび上がって来ました。

Then, the basin suddenly swelled with a surge

A cloud of spray came up from the waterfall.

And the darkness covered all around.

Something black like a spiny stick came up to the surface of water.



爺はこの様子を見て非常に驚き怖れて、一目散に山の麓の方へ逃げて来ますと・・・

The Old Woodman was surprised at this situation with fright.

And he ran down at full speed to the bottom of the hill.



・・・後ろから、まことに優しい声で、爺よ、少し待っておくれという人があります。

Someone spoke to the Old Woodman with a tender voice behind him.

"Please wait a minuet, Mr. Old Woodman!"



振り返ってみると、絵にあるような美しい若いお姫様が、ちょうどその滝のところに立っておられました。

私は安長姫といって、昔から、この淵に住む者だが、何時の頃よりか、ここには大きな蟹が来て住むことになって、夜も昼も私を苦しめていた。今日はそなたが斧を落としてくれたによって、悪い蟹は片腕を切り落とされて弱っている。

今、大きな棘の生えたその腕が、流れて行ったのを見たであろう。そのお礼を言わなければならぬが、まだ片方の腕が残っているので、安心をしていることが出来ぬ。蟹は今、淵の底の横穴の中で、腕の痛みで唸っている。

どうか、もう一度この斧を滝の上から落としておくれと言って、さっき水に沈めた斧を手渡しました。

The Old Woodman looked back.

And he found a picturesque pretty young Goddess standing by the waterfall.

She said:

I am Yasunaga Goddess;

And I have lived in this water since old times;

A big crab came here and settled down before I noticed it;

And it has harassed me nights and days;

Today, you dropped the ax;

So, its arm was cut off and the evil crab has got weak;

You just now saw its big spiny arm float and carried down;

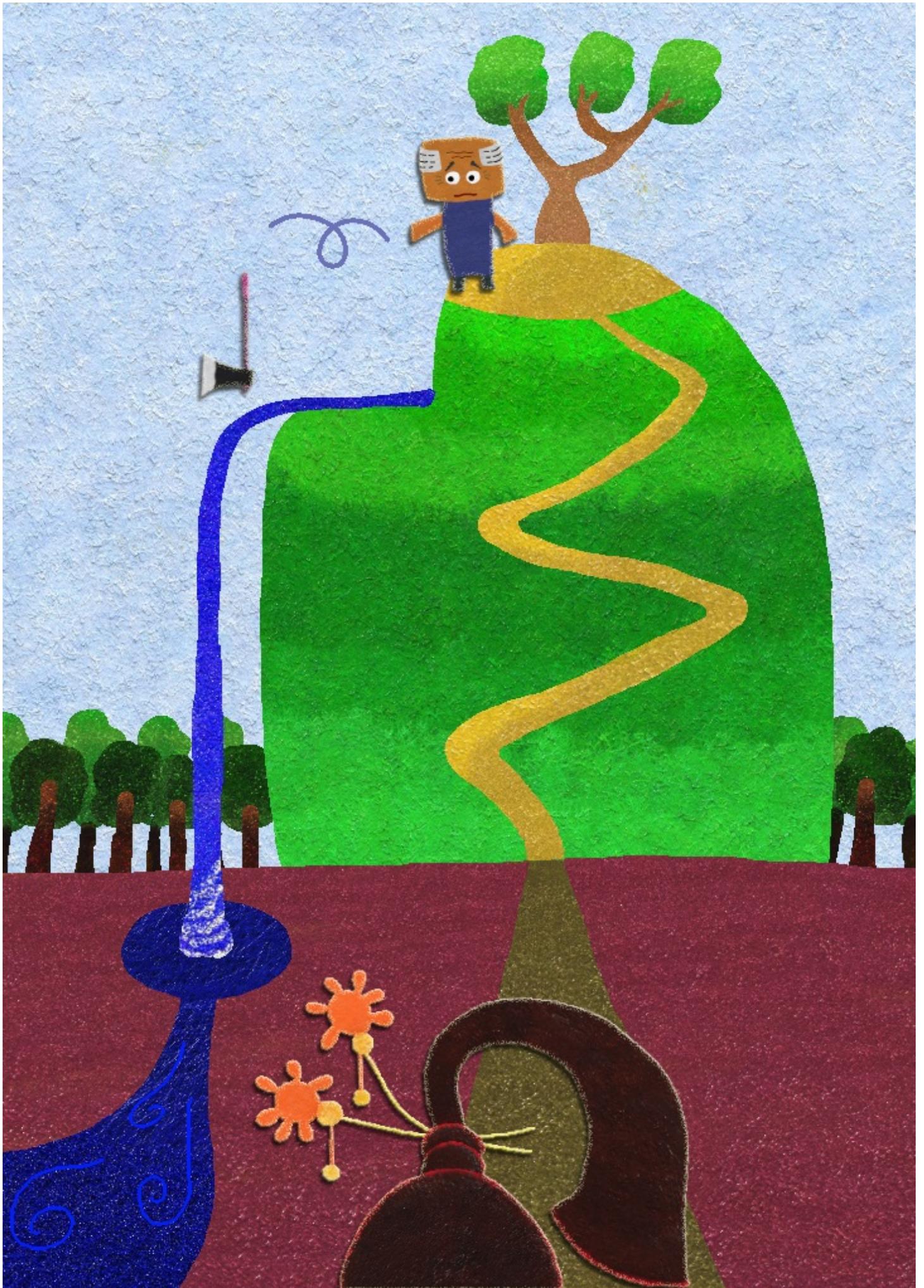
I really must express to you my gratitude;

But I cannot feel safe because another arm still remains;

The crab now groans with pain in a cave at the bottom of the basin;

Would you please drop this ax again from above the waterfall.

And she handed him the ax which sank in the water a while ago.



爺は怖ろしながら、水の神をお助け申したいと思って、再び元の山に戻って、言いつけられた通りに、その斧を高い所から滝壺に投げ入れますと・・・

The Old Woodman felt a fear, but he wanted to save the Goddess of water.

So, he went back to the hilltop.

He threw the ax into the basin from a high place as she said.

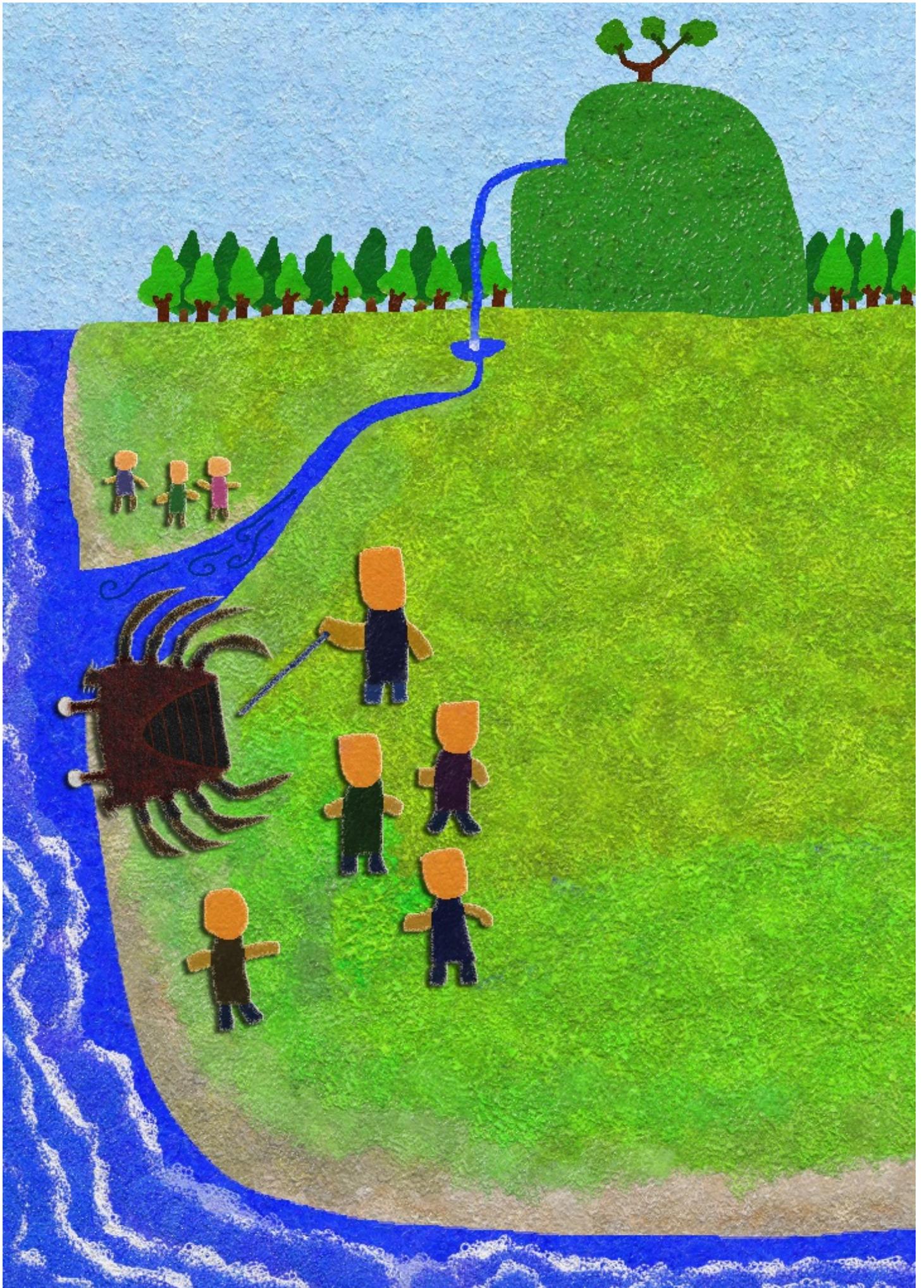


・・・姫神は大そうにお喜びで、これから後は富貴長命、なんなりともそなたの願うままと言って、林の中に帰って行かれました。

The Goddess was delighted at that.

"Your hopes for wealth, health and everything will come true from now on," she said.

And she returned back into the woods.



それから幾日かの後、甲羅の周りの一丈もある蟹の、大爪の両方ともないのが、死んで海の口へ流れて出たのを、村の人が見つけて、木こりの爺の言った話を、本当だと思いました。

そうして川の名前を安長川、滝壺を蟹淵と呼ぶようになったのそうです。

この川の流はどんな日照りの年でも水が絶えませぬ。そうしてこの水の神に雨乞いをするときと雨が降るといふことでもあります。

(隠岐周吉郡)

Several days later, a dead crab of a six-foot-shell without both claws was carried to the mouth of the river.

Village people found it and thought the Old Woodman's tale right.

So, the river has been called as Yasunaga River and the basin has been called as Crab Depth.

And this river never stop its water flow even if there is a long spell of dry weather in a year.

People say that the rain will surely fall if they pray for rain to the Goddess of water.

(Oki province Sukigun County)



## 推理エッセイ「漢風諡号」

著者：茜町春彦

概要：

天智系の桓武天皇は、なぜ天武系の漢風諡号がおくられているのでしょうか。

また、日本書紀は神功皇后紀を、なぜ他の天皇紀と同列に扱っているのでしょうか。考えてみました。

Q 1 :

天智系の桓武天皇は、なぜ天武系の漢風諡号がおくられているのでしょうか。

A 1 :

まず、天武天皇から光仁天皇までの状況を考えてみます。

壬申の乱以後、天武天皇は公家の支持を得ることが出来なかったため、皇親政治を行うしかありませんでした。

天武天皇崩御後、天智天皇側だった藤原不比等は持統天皇に近づき、官人としてのチャンスを掴みました。持統天皇が文武天皇の即位を望んでいたため、不比等はサポートしました。持統天皇崩御後、元明天皇・元正天皇は膳夫王が即位しても構わないと思っていましたが、不比等は聖武天皇の即位を望んでいました。

不比等没後、政権を執ったのは長屋王でしたが、自分の息子の膳夫王の即位を望んでいました。しかし聖武天皇と藤原四兄弟は、隙を突いて長屋王・膳夫王の排除に成功しました。

藤原四兄弟没後、光明皇后の同母兄の橘諸兄が無難に聖武・孝謙政権の運営を行ない、波風も立たず日々が過ぎていきました。その中、舎人親王系と手を組んだ藤原仲麻呂（恵美押勝）は淡路廢帝を担いで政権を執り、私利私欲に走りまわりました。それに対し、反仲麻呂派のグループが称徳天皇を担いで、仲麻呂の排除に成功しました。しかし、その後の称徳政権は道鏡により迷走しました。

称徳天皇崩御後、藤原永手が道鏡を排除し、さらに光仁天皇を中継ぎとして、井上内親王を通して天武朝を女系で他戸親王へ伝えようとしていました。しかし永手はすぐに没してしまいました。これをチャンス到来と見た藤原良継・百川は、井上内親王と他戸親王を排除して、桓武天皇を担いで政権を執りました。これで、皇統は天武系から天智系へ完全にシフトしたわけです。

因みに、『桓』の意味を漢和辞典で調べて、引用しますと、

- 棺を墓穴におろすために四すみに立てる柱（角川漢和中辞典）

引用終わります。

つまり、天武系の皇族を「棺桶に入れて墓に埋めて」地上から排除した意味を示すために、漢風諡号『桓武』天皇となったと推理します。

图1 天智·天武朝略图

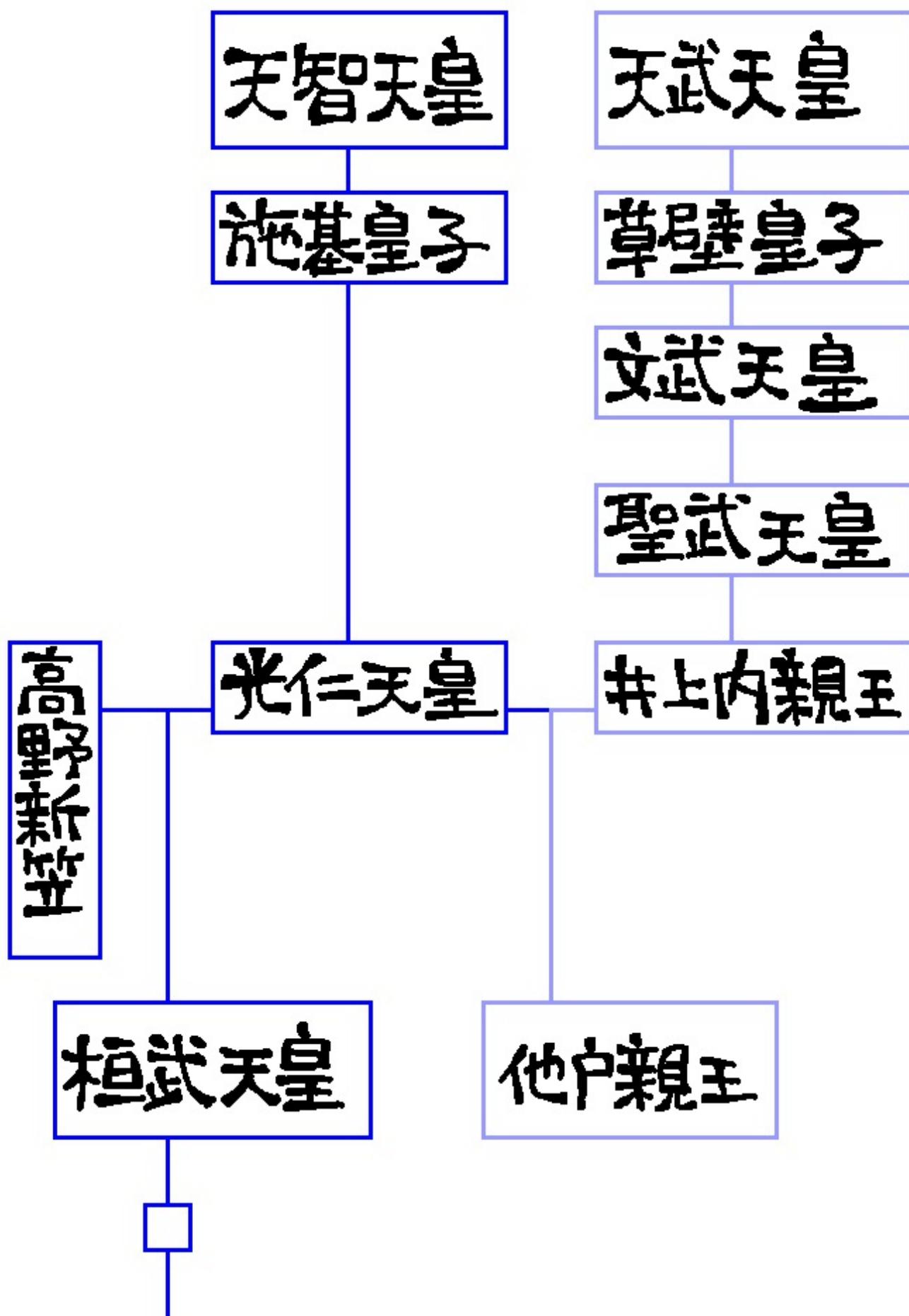


図2 参考略図

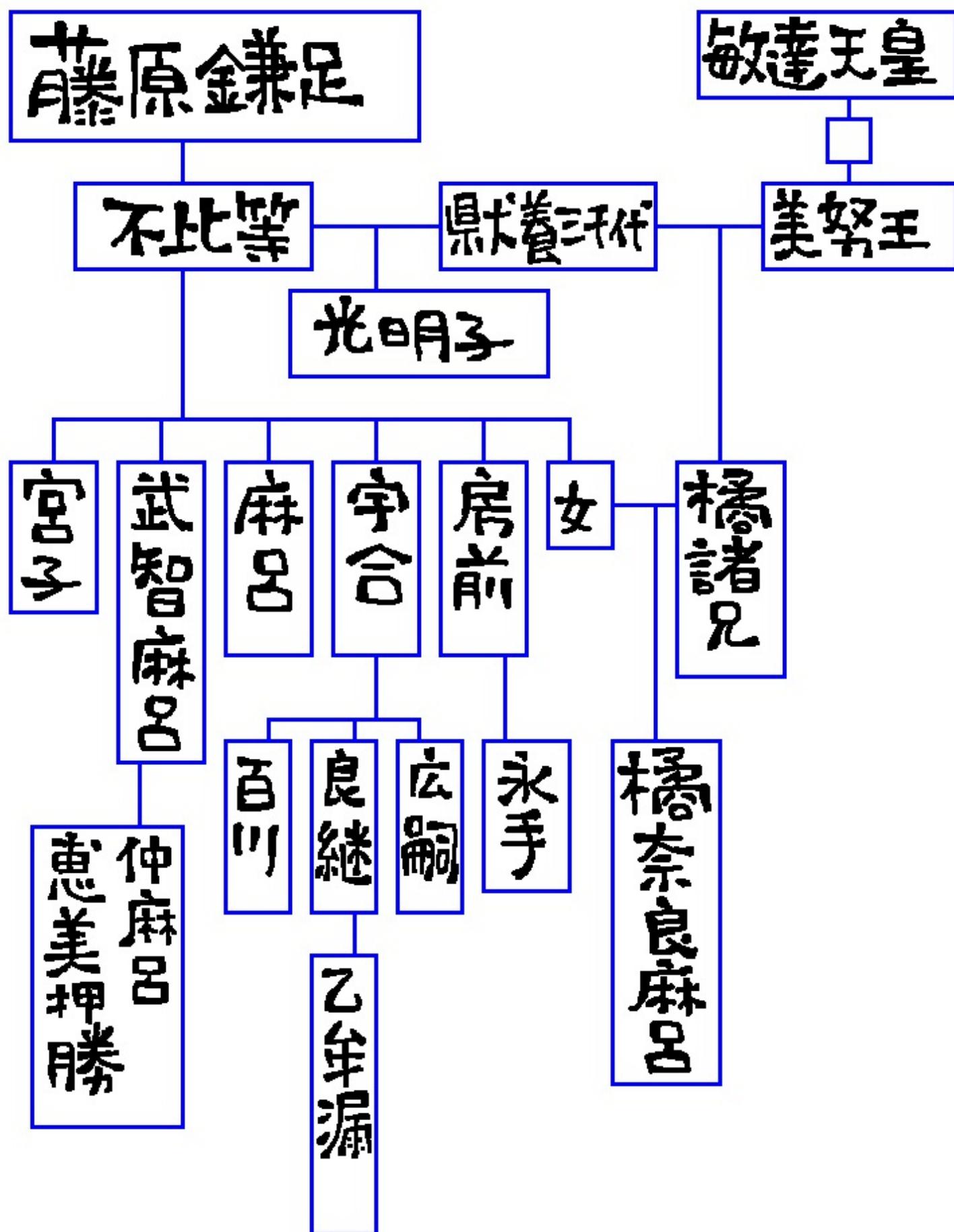
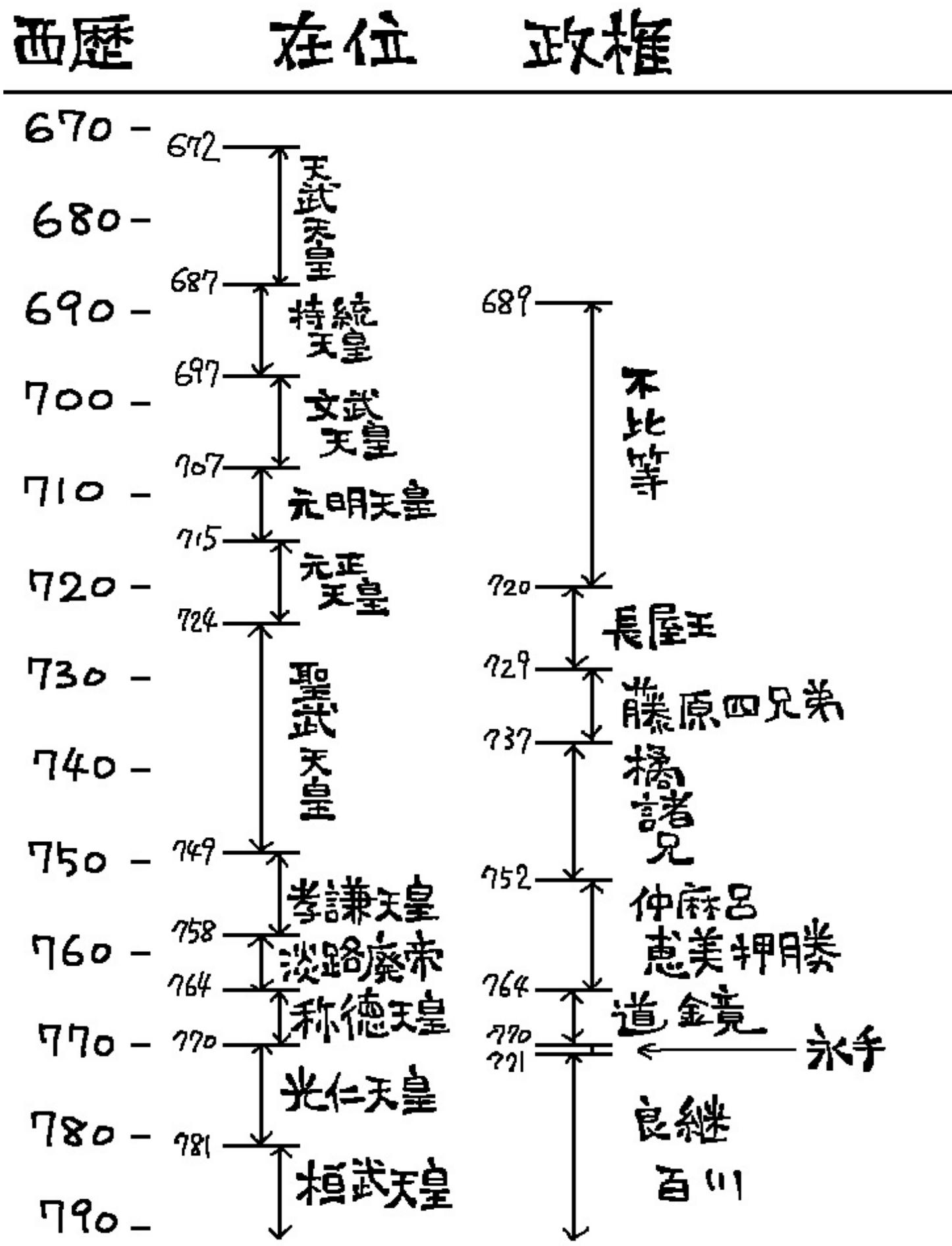


图3 奈良时代略年表



Q 2 :

日本書紀は神功皇后紀を、なぜ他の天皇紀と同列に扱っているのでしょうか。

A 2 :

まず、崇神天皇の皇統について考えてみます。

孝元天皇紀に於いて、孝元7年から22年の間に伊香色謎命は彦太忍信命を産んでいます。孝元57年に孝元天皇は崩御しています。開化天皇紀に於いて、開化6年に伊香色謎命は再嫁して崇神天皇を産んでいます。

仮に15歳で伊香色謎命が孝元7年に彦太忍信命を産んだとすると、崇神天皇を産んだのは71歳となります。彦太忍信命を産んだのが孝元22年だったとしても、崇神天皇を産んだのは56歳の時となります。

このことから、伊香色謎命が開化天皇に再嫁して崇神天皇を産んだと解するよりも、崇神天皇は開化天皇の猶子となったと解するのが自然だと思います。

次に、応神天皇の出産時の事について考えてみます。

神功皇后紀に於いて、仲哀9年12月14日の条に応神天皇が産まれるとあります。今も昔も、所謂『妊娠期間』は十月十日だと思います。すると12月14日の十月十日前は2月5日になります。普通人々は、この日に妊娠したはずだと考えるでしょう。

そこで、仲哀天皇紀をみますと、仲哀9年2月5日の条に、仲哀天皇は病気になり翌日には崩御したとあります。その時、天皇の喪を隠した神功皇后と一緒にいたのは武内宿禰です。日本書紀の制作者は何かを伝える為に、応神天皇が仲哀天皇崩御後十月十日経ってから産まれたとワザワザ記述したのでしょう。

また、神功皇后紀に於いて、仲哀9年9月5日の条に、臨月であるが石を腰に挟んで出産を遅らす由の記述があります。実際に生まれたのは12月なので、本当に9月が臨月ならば妊娠期間は13ヶ月あったことになります。今でも昔でも、それは不自然です。仮に9月が臨月とした場合の十月十日前を考えると、仲哀8年11月に妊娠していたことになるはずですが、そこで仲哀天皇記をみると仲哀8年9月5日の条の後半に、日本書紀の制作者は神功皇后が妊娠していることの記述はしていますがワザワザ神託と称しています。

以上のことから日本書紀の制作者の公式見解は、仲哀天皇崩御後十月十日が過ぎたが、確かに神功皇后は仲哀天皇の子を妊娠していて仲哀9年9月には臨月であったが12月14日に出産したのは無理矢理3ヶ月遅らせたからなので、応神天皇の父は仲哀天皇であるべきだと言うのでしょうか。しかし隠れた意味として、実際の出産日12月14日の十月十日前の2月5日には仲哀天皇は病気で翌日に

は崩御しているから、その時に神功皇后と一緒にいた武内宿禰が応神天皇の実父であると暗に示していることを読み取って欲しいと言いたいのでしょうか。

更に、応神天皇紀にある敦賀の気飯大神との名前の交換について考えてみます。

気飯大神は、仲哀天皇紀の仲哀2年2月6日の条で言及している気飯宮の暗喩と解すると、仲哀天皇を示していると思います。つまり、崩御した仲哀天皇を気飯大神と呼んだということです。その気飯大神と名を交換したということは、応神天皇が崇神・仲哀朝へ猶子に入ったということを示していると思います。

また神功皇后紀には神功皇后は開化天皇4世の孫とあり、そして孝元天皇紀には武内宿禰は孝元天皇3世の孫とあるので、神功皇后と武内宿禰は孝元・開化朝に連なっています。

以上のことから、神功皇后が崇神・仲哀朝を排除して孝元・開化朝を女系で応神天皇へ伝えたので、日本書紀では神功皇后は他の天皇と同列に扱われていると推理します。

このことを後世に伝えたいと考えた人々が日本書紀を制作したのではないかと思います。多分不比等に連なる人でしょうか。明らかにしたくない人々が制作したのが古事記だと思います。多分長屋王に連なる人でしょうか。

(上述の『気飯』は、フォントがないので代用したものです。正しくは竹冠に司と書いて『け』です。)

話は変わりますが、淳中倉太珠敷天皇の漢風諡号『敏達』の意味は『するすると産まれる』であるにもかかわらず、なぜ母の名は『石姫』なのかと云うことについては、別途機会があれば考えてみたいと思います。

图4 孝元·開化朝略図

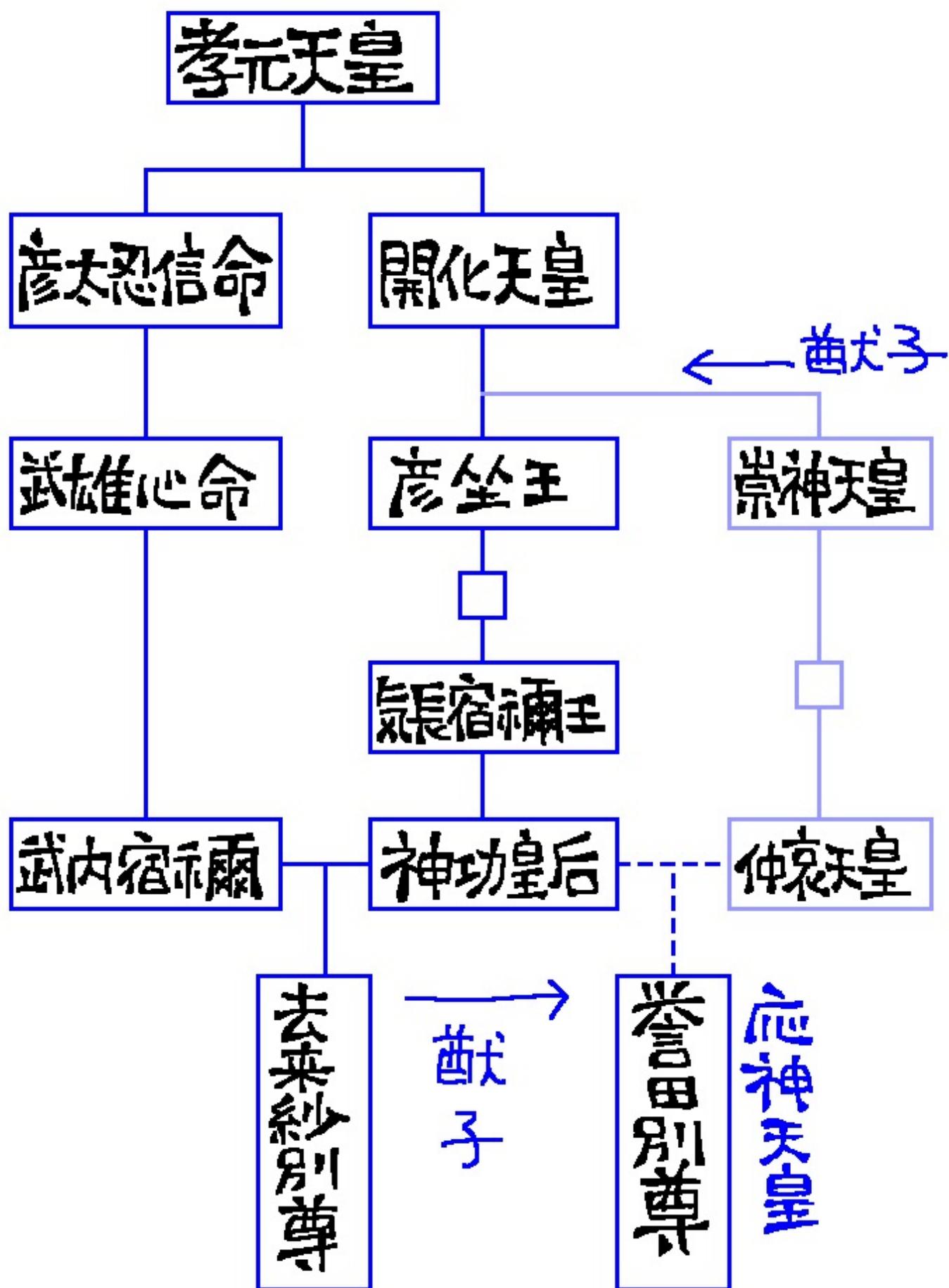


图5 参考略图

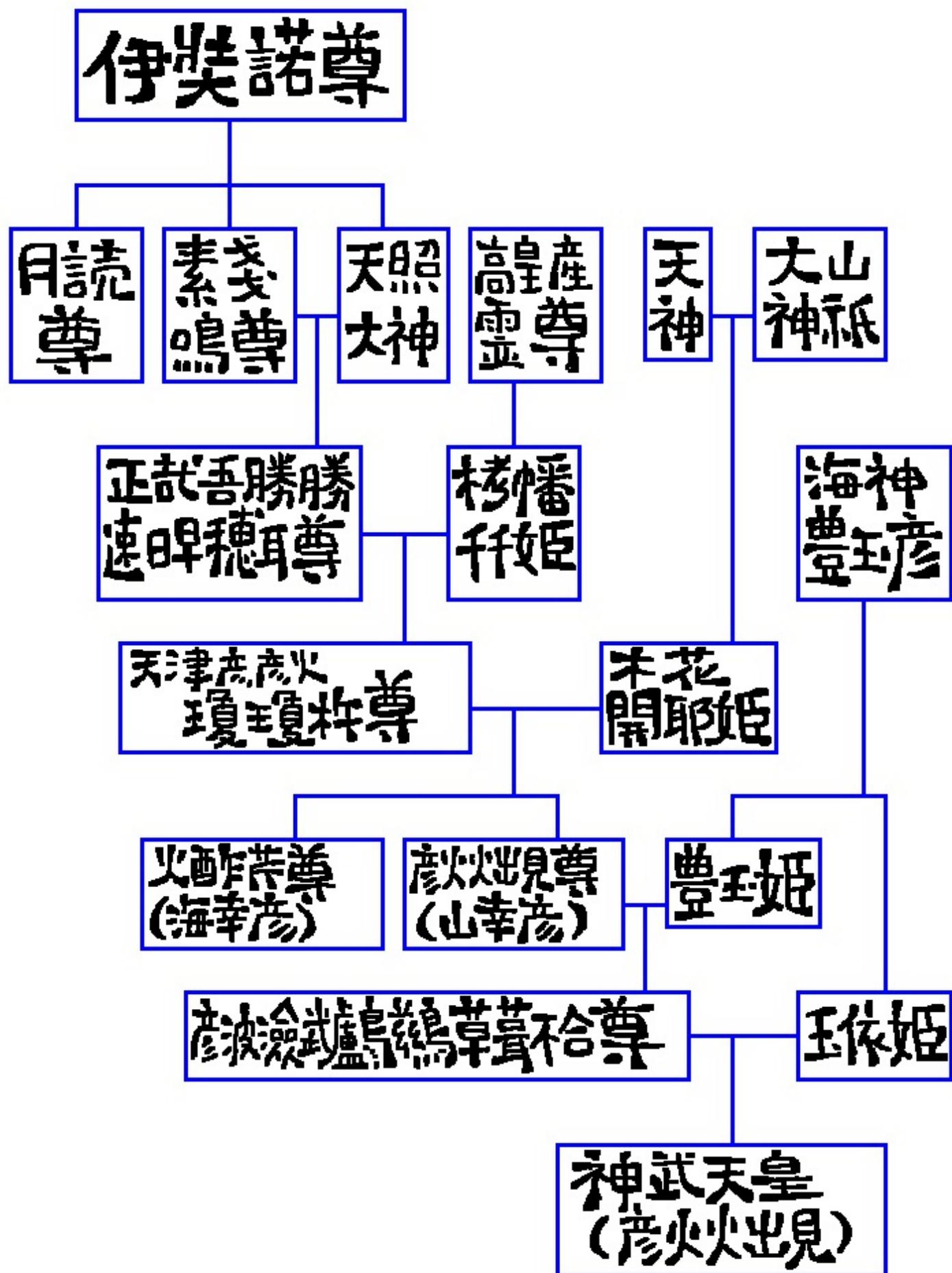


图6 参考略图

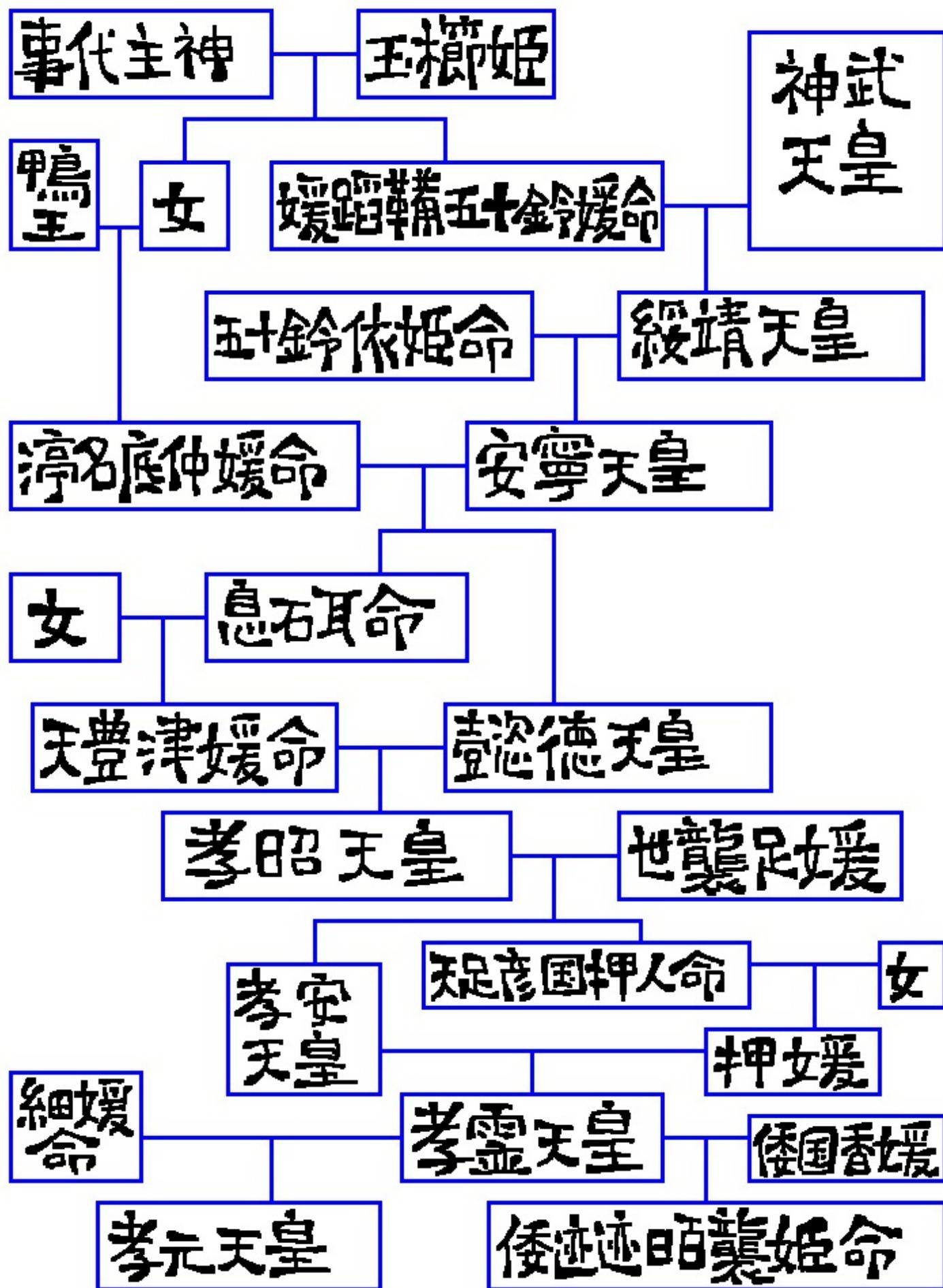
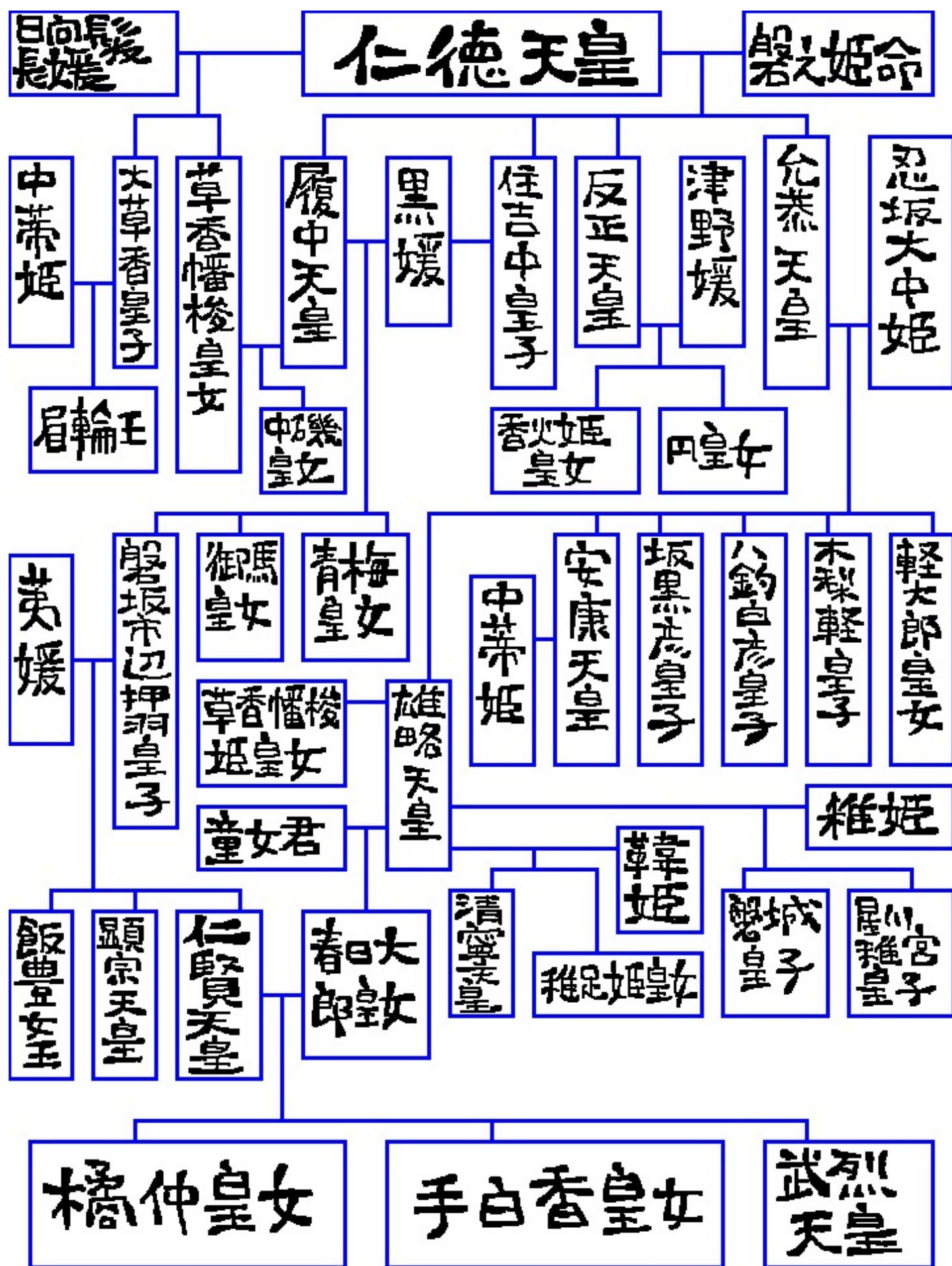




图8 参考略图







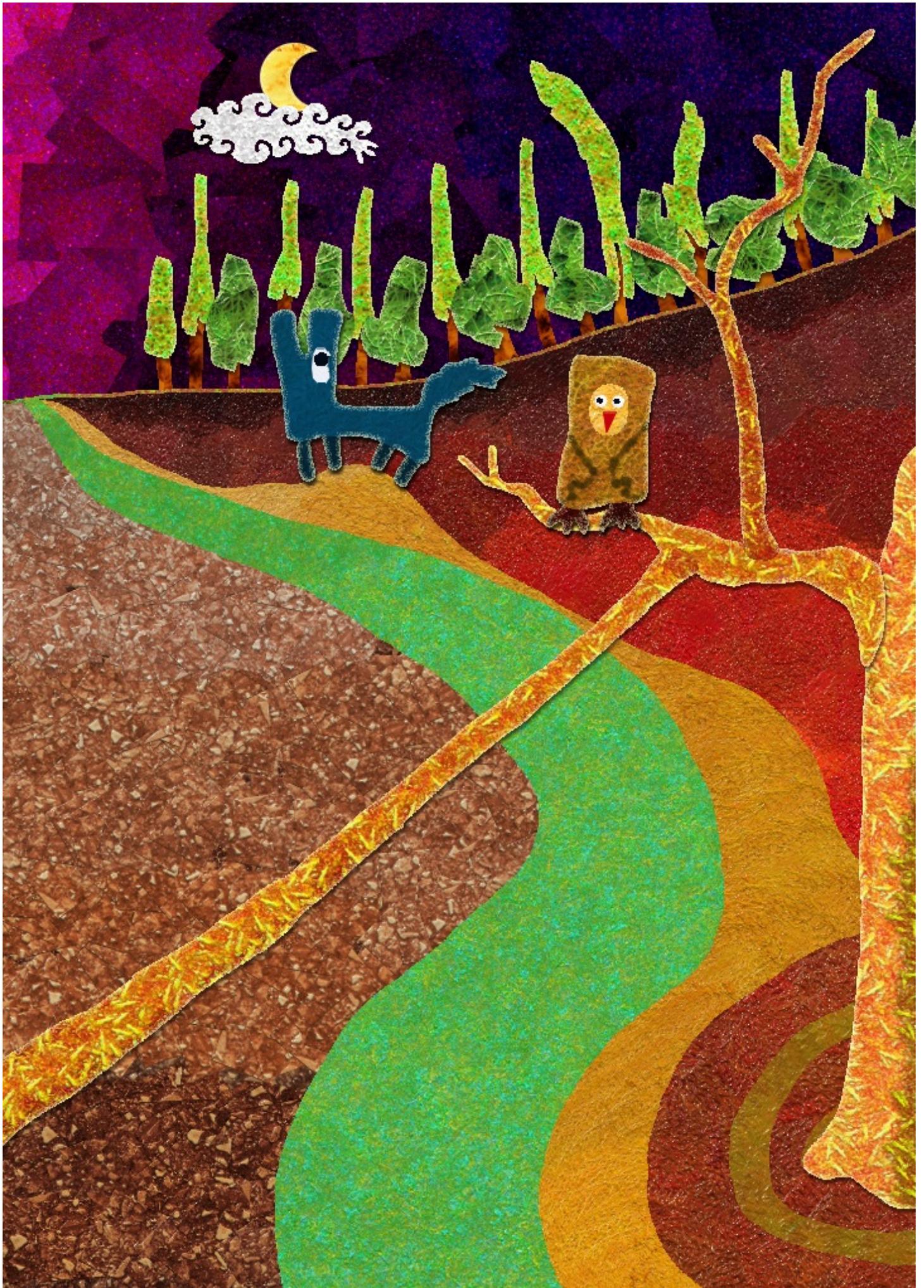
イラストレーション  
「十一面観音菩薩（2013年）」

制作：茜町春彦

サムネイル：









## 後書き

---

参考文献：

日本の昔話：平成17年10月25日36刷

（新潮文庫）

漢文法基礎 本当にわかる漢文入門：2010年12月13日第4刷発行

（講談社学術文庫）

ジーニアス英和辞典〈改訂版〉2色刷り：1994年4月1日改訂版初版発行

（株式会社大修館書店）

新コンサイス和英辞典〈革装〉第3刷：昭和50年9月15日第1刷発行

（株式会社三省堂）

実例英文法〈第4版〉：昭和63年6月第1刷発行

（オックスフォード大学出版局：A J. トムソン、A V. マーティネット共著、江川泰一郎訳）

Longman Dictionary of American English:First printing 1983

(Longman Inc.)

日本書紀（上）現代語訳：2007年12月3日第43刷発行

（宇治谷孟著、講談社学術文庫）

日本書紀（下）現代語訳：2009年1月20日第42刷発行

（宇治谷孟著、講談社学術文庫）

日本の歴史03 大王から天皇へ：2009年12月1日第5刷発行

（熊谷公男著、講談社学術文庫）

日本の歴史04 平城京と木簡の世紀：2009年12月1日第3刷発行

（渡辺晃宏著、講談社学術文庫）

日本書紀上 日本古典文学大系67：1986年8月8日第21刷発行

（坂本太郎・家永三郎・井上光貞・大野晋校注、株式会社岩波書店）

角川漢和中辞典：1995年11月20日235版発行

（株式会社角川書店）

大漢語林：平成4年4月25日初版発行

（株式会社大修館書店）

字統：1985年1月7日初版第8刷発行

（株式会社平凡社）

C G 画像：

次の画像処理ソフトウェアを使用しました。

ArtRage 3 Studio Pro（アンビエント社）

Photoshop Elements 10（アドビシステムズ株式会社）

著者：

茜町春彦（あかねまちはるひこ）と申します。 2004年より活動を始めたフリーランスのライター&イラストレーターです。 作品が社会の進歩に多少なりとも寄与することを願いながら、日々制作を行なっています。

その他：

製品名等はメーカー等の登録商標等です。

本書は著作権法により保護されています。

2013年8月26日発行

2019年6月27日改訂

## リトルプレス小豆A1

<http://p.booklog.jp/book/75976>

著者：茜町春彦

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/akaneharu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/75976>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/75976>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ